

グループワークの進め方

吉川公章（福井県立大学）

I. グループの意義

グループ：構成員が互いに対面的な関係にあり、密接な交流のある集団

1.特性

- 1)メンバーに対する安定感の付与
- 2)社会的態度および価値観の学習の場
- 3)社会的行動の単位

2.人間にとってのグループの意味

1)乳幼児期：

- ①家族との様々な相互作用を通じて人間としての基礎を形成する家族グループ
- ②他者の立場を認め、仲間意識や共同意識を養う幼児グループ

2)児童期：家族と離れ、社会性を形成して行く。グループでの独自文化の形成

3)青年期：モラトリアム期、心理的依存と自己の安定化

4)成人期：課題達成を中心にした目的・人為的グループと自然発生的グループ

5)高齢期：グループの消滅 — 個人差が顕著

II. グループの成長・発達・変化要因

1.メンバーのニーズ

2.グループのタイプ

3.目標

4.場所

5.リーダーの影響

6.グループの発達段階

III. グループの成長・発達・変化

1.形成期

- 1)共通の目的や目標を見つけだす
- 2)グループの目的を達成するためにさまざまな課題について行動し始める
- 3)自分と他のメンバーの関係を試しながら、グループのなかでの位置を決める
- 4)現在のグループを“このグループ”として、他のグループとは別に存在する1つの総合体であると見始める
- 5)グループのメンバーとしてどのようなことが期待されているのかを自分の中で設定し始める

2.葛藤期（嵐の時期）：グループが落ち着いたかに見える直後のまだ“試し”の時期

- 1)お互いの競争や葛藤・敵対
- 2)リーダー、プログラム展開、協調への抵抗
- 3)グループの統一性の崩壊 サブグループの出現・サブグループ間の葛藤

⇕

- ①自己防衛の低下構えた姿勢からより親密な関係への展開
- ②個人やグループの課題からの開放の始まり
- ③グループからの強制への嫌悪：時間・エネルギー・自分たち自身
- ④地位や役割のゆるやかな確立

3.規範期（静の時期）：嵐が過ぎた後の静かな時期→葛藤の解決の仕方ですさまざまに現れる

- 1)共同の感情の発達
- 2)信頼感・親密感・統一感の増大
- 3)グループ独自の規範の創出
- 4)自らの行動を統制する規制を設定し始める

4.再形成期：グループの成長の成果を反映

- 1) 葛藤の解決と自己の限界の理解
- 2) メンバー間の相互依存
- 3) 自立性の高まり
- 4) 新しい強さの発揮

5.終結期：分離と個別化

- 1) 個々のメンバーの独自のニーズや目標の達成
- 2) 抵抗や退行の出現
- 3) 新しい課題・ニーズの発見
- 4) 終結の体験

IV、反グループ行動

- 1.聞かないこと（聞いていないこと）
- 2.話すメンバーをさえぎってしまうこと
- 3.相手やグループの特徴をことさらに平板化してしまうこと
- 4.相手やグループのあら探しや足りない点をことさらにあげつらうこと
- 5.細かいことにこだわり、まるで編み物の目を拾うような行動をとること
- 6.何から何まで拒否すること
- 7.不適切な冗談を言ったり、痛烈な皮肉を頻繁に述べ、また、ブラックユーモアを語る
- 8.場違いの怒りを示したり、暴言を吐くこと

V、グループへの介入

1.共通技術

- 1) 対象を設定し、基本枠組みを構想する
- 2) 話し方：話す早さ・声の大きさ、視線
- 3) 傾聴
- 4) つなぎと相互作用 → 2.(4), (5)
- 5) 集団規範の形成

2.過程技術

- 1) 波長合わせ
- 2) 確認と契約
- 3) コミュニケーションを高める
- 4) 課題・問題の共通点の確認・相違点の意識化
- 5) 共通する問題の見方や解決策の考察を深める
- 6) 一人一人の問題解決のに向けた取り組みを進める
- 7) 特定のメンバーの問題解決が他のメンバーの役に立つことに気づく
- 8) 終結

VI、多職種連携・協働のためのグループワーク

- 1) 目的の明確化：今回の目的は何か → 進め方の違い（線路、ガードレール、放牧）
- 2) グループワークへの意識づくり：メンバーの主体的参加、他者（違い）の理解・尊重
- 3) 言語の意味の違い：基盤となる専門性の相違の相互理解
- 4) コーディネート役割の理解と実践
 - ・メンバーの語りや意見を引き出す、
 - ・メンバー間をつなぐ
 - ・コメンテーター、スーパーヴァイザーとは異なる役割
 - ・方向の修正やズレのコントロール